

モデルプログラム検証 カリキュラム（実施計画 細案（1回分））

実施団体名 福岡市教育委員会

養成・○研修 / 基礎・○専門・支援員（該当するものに○）

★参照したモデルプログラム NO.21（報告書 pp.207-244） 下線：内容・項目（pp.72-76）

日時・場所	2018年9月20日(木)14:00~17:00 福岡市立博多小学校			
実施団体・機関	福岡市教育委員会 福岡市JSL日本語指導教育研究会			
研修・授業名	第3回日本語指導担当教員研修会 福岡市JSL日本語指導教育研究会第6回研修会 共催 日本語と教科の統合学習指導に関する授業研究会			
受講者	・人数:27人 ・年齢層:20代()名 30-40代()名 50代()名 60歳以上()名 ・その他: ・受講者の立場 日本語指導担当教員(小学校教諭、中学校教員)			
演題・テーマ☆	⑰ 日本語指導の理論と方法(p75-p76) 日本語指導教室での支援(p76) ☆研修内容(報告書pp.72-76)を反映			
到達目標	・日本語と教科の統合学習における「日本語の目標」の設定の仕方について考えることができる。 ・日本語と教科の統合学習における効果的な支援の方法について考えることができる。			
活動展開 (115分)	★	形態	留意点	参考資料
導入: 1 授業研究会の目的を確認し、授業観察の視点を共有する。(10分)	⑰ ⑭	講義	○学習指導案をもとに次の点を確認する。 ・児童の実態 ・本時目標(教科、日本語) ○授業観察の視点を確認する。 ・教員は、内容理解や学習参加のため、どのような支援(スキヤフォールディング)を行っているか。 ・児童は、授業のどのような場面でのどのような日本語を使って学習しているか。	・授業者が作成した教科志向型JSLカリキュラム学習指導案
展開: 2 日本語と教科の統合学習の授業を参観し、日本語を学ぶ児童の具体的な姿や、学習支援のための具体的な方法に気づく。(45分)	⑮	参観	○参観者は、次のような支援が見られた場面をメモし、授業後のセッションで紹介できるようにしておく。 ・支援(スキヤフォールディング)の効果 -理解のための支援 -表現のための支援 -覚えやすくするための記憶支援 -自分で学べるようにするための	授業記録のためのビデオ、カメラ

<p>3 授業者による授業の解説を聞く。 (10分)</p>	<p>⑭</p>	<p>講義</p>	<p>自律支援 ー意欲等を維持するための情意支援 ・具体的な方法 ーフォーカス・オン・フォーム ーリキャスト ○児童の実態に応じた目標設定 ○授業者が意図した支援</p>	
<p>4 日本語指導教室でできる支援とその効果について検討する。(40分)</p>	<p>⑰</p>	<p>協議</p>	<p>○観察した授業について話し合い、外国人児童生徒の学習参加上の困難と、それに対する教師の支援とその効果について検討する ①観察した児童の姿をもとに、日本語の目標設定の適否について検討する。 ②授業中の支援について気づいたことを、付箋に書いて発表し合う。 ③支援の効果を「理解・表現・記憶・自律・情意」等から考える。 ④日本語の目標設定、支援の効果と具体的な方法について講師の話聞く。</p>	<p>付箋紙、模造紙、マジック</p>
<p>まとめ： 5 日本語指導担当教員として工夫したいことを考える。(10分)</p> <p>※終了後アンケート記入</p>	<p>⑮</p>	<p>ペア対話</p>	<p>○自身が担当している児童生徒に対して、授業中どのように支援を工夫したいかペアで話し合い、支援方法についてイメージをもつ。</p>	<p>アンケート用紙</p>